

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 北海道縦貫自動車道 <small>しべつけんぶち なよろ</small> 士別剣淵～名寄	事業区分 高速自動車国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局				
起終点 自：北海道 <small>しべつ</small> 士別市南町東 至：北海道 <small>なよろ</small> 名寄市字豊栄	延長 24.0km					
事業概要 北海道縦貫自動車道は、函館市を起点とし、室蘭市、札幌市、旭川市、士別市、名寄市等を経由して稚内市に至る延長約681kmの高速自動車国道である。 このうち士別剣淵～名寄は、高速ネットワークの拡充による道北圏と道央圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、物流効率化等の支援を目的とした、士別剣淵ICから名寄ICに至る延長24.0kmの事業である。						
H15年度事業化 H一年度都市計画決定		H19年度用地補償着手 H19年度工事着手				
全体事業費 約295億円	事業進捗率 47%	供用済延長 0.0km				
計画交通量 3,300台/日						
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C <small>(事業全体)</small> 1.2 <small>(残事業)</small> 2.5 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 167/338億円 (事業費：109/280億円 維持管理費：58/58億円) </td> <td style="text-align: center;"> 総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 411/411億円 (走行時間短縮便益：334/334億円 走行経費減少便益：51/51億円 交通事故減少便益：25/25億円) </td> <td style="text-align: center;"> 基準年 平成26年 </td> </tr> </table>	B/C <small>(事業全体)</small> 1.2 <small>(残事業)</small> 2.5	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 167/338億円 (事業費：109/280億円 維持管理費：58/58億円)	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 411/411億円 (走行時間短縮便益：334/334億円 走行経費減少便益：51/51億円 交通事故減少便益：25/25億円)	基準年 平成26年	
B/C <small>(事業全体)</small> 1.2 <small>(残事業)</small> 2.5	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 167/338億円 (事業費：109/280億円 維持管理費：58/58億円)	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 411/411億円 (走行時間短縮便益：334/334億円 走行経費減少便益：51/51億円 交通事故減少便益：25/25億円)	基準年 平成26年			
感度分析の結果 事業全体および残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=1.04～1.4（交通量±10%） 【残事業】交通量：B/C=2.1～2.8（交通量±10%） 事業費：B/C=1.2～1.2（事業費±10%） 事業費：B/C=2.3～2.6（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.2～1.2（事業期間±20%） 事業期間：B/C=2.4～3.0（事業期間±20%）						
事業の効果等						
①主要都市間の利便性向上 ・旭川市と稚内市との所要時間が夏期で12分（冬期は15分）短縮され、地域住民の利便性向上や地域間交流の活性化が期待される。 ②広域化が進む地域医療への支援 <通院の利便性向上> ・診療科目が増加している中心都市と減少している地方部に二極化している当該地域において、診療科目が多い中心都市への通院の利便性向上が期待される。 <救急搬送の安定性向上> ・四国4県にほぼ等しいエリアを第3次医療施設の医療圏とする当該地域において、救急搬送の安定性向上が期待される。 ③物流の利便性向上 <生体牛の流通利便性向上> ・豊富町の家畜市場から帯広市、旭川市、北見市へ出荷される生体牛（約2.1万頭/年）の流通利便性向上が期待される。 <青果物の流通利便性向上> ・名寄市から札幌市や道外へ出荷される農産品（アスパラ約481t/年、かぼちゃ約4,045t/年）の流通利便性向上が期待される。 <水産物の流通利便性向上> ・猿払村、浜頓別町、枝幸町から道外へ出荷される水産品（ホタテ9.8万t/年、毛ガニ465t/年）の流通利便性向上が期待される。 ④災害発生時の緊急輸送ルートの強化 ・内陸部の道路網が強化され災害により被災した地域などへの迅速な救急搬送や救援物資等の輸送の確実性向上が期待される。 ⑤日常活動圏中心都市への利便性向上 ・中川町から旭川市への所要時間が短縮されるなど、日常活動圏中心都市への利便性向上が期待される。						

⑥主要な観光地への利便性向上

・天塩川流域の連携が強化されるとともに、冬期観光や主要な観光地への利便性向上が期待される。

⑦CO₂排出量の削減

・自動車からのCO₂排出量1,944(t-CO₂/年)の削減が期待される。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

士別市、旭川市など7市4町の首長等で構成される「北海道開発幹線自動車道道北建設促進期成会」等より整備促進の要望を受けている。

知事の意見：

高速ネットワークの拡充による道央圏と道北圏の連絡強化により、地域間交流の活性化や高次医療施設へのアクセスの向上が図られるなど、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の「当面着工しないとされた区間」を含めた事業の継続について異議はない。

なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト削減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期に全線供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成18年に「緊急に整備すべき区間」を設定し、事業を進めている。

[平成18年以降の周辺地域の社会情勢の変化]

- ①通過交通の増加
- ②地域医療の広域化と旭川市・名寄市への二極化
- ③物流経路としての重要性の高まり
- ④広域防災体制の構築
- ⑤商圈の拡大
- ⑥観光活性化への新たな取り組み
- ⑦交通事故の状況

[高速交通ネットワークの整備]

- ・名寄美深道路が智恵文南入口～美深北ICまで開通
- ・幌富バイパスが幌延IC～豊富サロベツICまで開通

[市町村合併の状況]

- ・市町村合併により、「士別市」、「名寄市」、「枝幸町」が誕生

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成15年度に事業化、平成19年度に工事着手して、用地進捗率88%、事業進捗率47%となっている。(平成26年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

<士別市多寄町～名寄IC>

事業の着手に至っていない。

「工事は、さしあたり北海道上川郡剣淵町から士別市多寄町までの区間において行うこととし、その余の区間については当面行わない」とされている。

平成27年度：士別剣淵IC～士別市多寄町間 延長12.0km(2/4)開通予定

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や工法等の変更はないが、引き続きコスト削減に取り組んでいく。

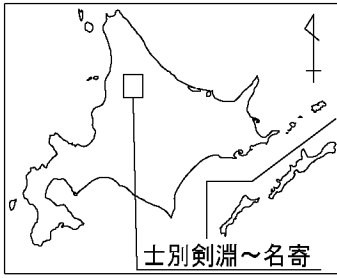
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

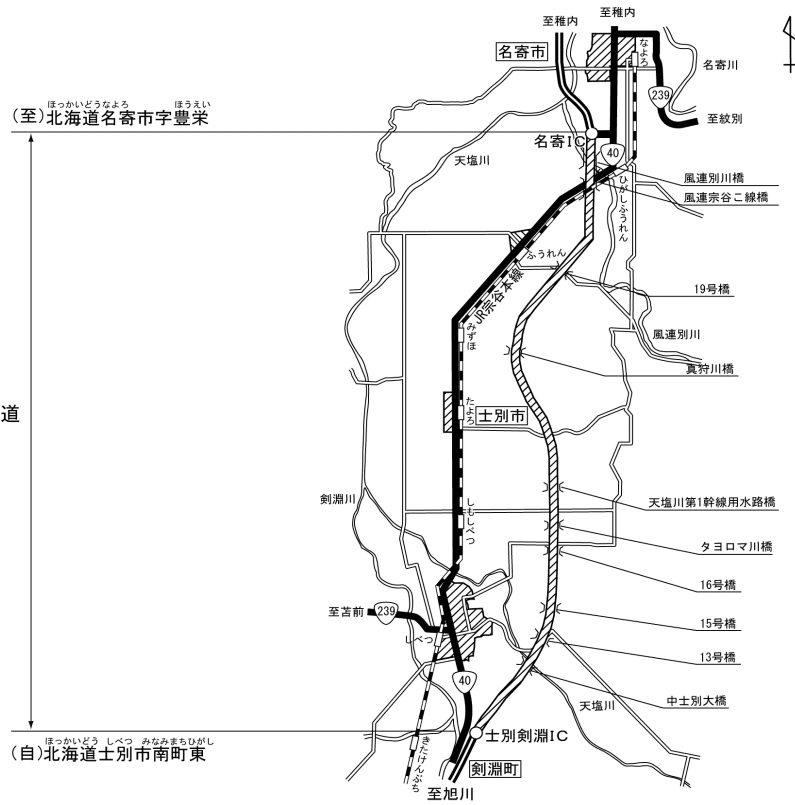
事業の効果、事業審議委員会における審議、知事の意見等を踏まえると、「当面着工しない区間」も含め、事業の必要性、重要性は高まっている。

事業概要図



北海道縦貫自動車道
土別剣淵～名寄
延長24.0km

凡 例	
	開 通 区 間
	再 評 価 区 間



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。